

2004年1月6日

各位

2004年社長年頭挨拶(要旨)

三井化学株式会社  
社長 中西 宏幸

明けましておめでとう。

昨年は、イラク情勢、SARSの影響などで前半は厳しい状況が続いた景気も、後半からは徐々に持ち直しに向けた動きが明らかになってきた。

その様な中で、弊社は発足以来7年目を迎え、今年は新たな中期経営計画をスタートさせる年にあっており、「変革への挑戦」という新たな決意で臨みたい。

現在策定中の新中計の基本コンセプトについては、まず、「経営ビジョン」における「目指すべき企業像」を従来は「世界の市場で存在感のある総合化学企業」としていたが、あえて「総合化学」という文字を削除することとした。これは、「総合化学」という表現は何でもやる化学会社であると誤解される傾向があるので、自分達の事業領域をしっかりと定め、それに向けて「選択と集中」を実行していくことを社内外に明確にすることが、必要であると判断したからである。

その上で、「事業構造の変革と収益力強化」を重要なポイントとしたいと考えている。言い換えると、「量的拡大から質的拡大への転換を志向し、事業の選択と集中により、機能性材料分野の拡大・成長、および、石化・基礎化学品分野の収益力強化を図る」というものである。

具体的には、機能性材料分野の拡大・成長に向けて、機能性オレフィンポリマー、ウレタン、情報・電子材料、ヘルスケア材料を重点コア事業とし経営資源を重点投入したいと考えている。新製品の育成・拡大についても、弊社の得意技術である触媒科学とポリマーサイエンスを活用した新規機能性オレフィンポリマーの開発などを積極的に進めていく。

石化・基礎化学品分野の収益力強化に向けては、大阪工場のプロピレンセンター化を中心とした事業構造の抜本的変革と、コア事業(PPコンパウンド、PTA、PET樹脂、フェノール、BPA)への一層の集中を進めていきたい。

「安全の確保」については、製造業の原点に立ち返った、事故・労災・法令遵守等に係る、全社運営体制の見直しを行なっていきたい。

昨年11月から移転し新本社となった。新中計を策定し心機一転、「変革への挑戦」に強い意志と信念をもって進みたい。

以上